

受講番号 19024 学校名 高知小津高等学校 氏名 越野 正規

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 1年生 生徒数 41名
科目名 英語Ⅰ 単位数(授業時数) 4時間 使用教科書名 POLESTAR English CourseⅠ(数研出版)

クラスの様子・特徴

明るく素直な生徒であり、授業へも熱心に取り組むことができる。授業中の音読やペアワークには積極的に取り組もうとする姿勢が見られる。英語が好きな生徒が比較的多いようである。

問題の確定

高校での英語の量やスピードに戸惑っている生徒がいる。英文を読むスピードが少し遅い。英語学習への意欲がやや低下傾向にある。

予備調査

A 授業の観察

授業中の活動には熱心に取り組んでいる。単語を日本語から英語に直す際の反応が比較的速い。スラッシュ毎の意味理解、ターゲット文の理解もよくできている。説明をすると少し退屈そうである。

B 生徒による授業評価

5月実施の授業評価では、授業理解度、授業の楽しさともまずまずであった。授業への取組については、ほとんどの生徒がよく取り組んでいると回答している。宿題や単語テスト等、高校英語の量の多さに戸惑っている様子もうかがえる。

C 学カデータ

4月課題テストクラス平均点: 78.0
4月スタディーサポート平均点: 78.0
1学期末語彙サイズテスト平均点(2000語): 1513

リサーチ・クエスト

基礎的な語彙力を身につけ、英文をある程度の速さで読むことができるようにするためには、どのようにすればよいか。

仮説・実践・検証

仮説1

英語の語順のまま、フレーズ毎に意味をつかめるようにすれば、読むスピードが速くなるだろう。

実践1

教科書準拠のベーシックノートを利用して、授業を行った。単語調べは主に週末課題で取り組ませた。内容理解、重要文の構造理解の際に、意味のまとまり(フレーズ)に注目させ、英語の語順のまま意味理解をするようにした。

検証1

アンケートの結果から、フレーズ毎に意味を理解することに対して、生徒は慣れてきているようである。英文を読む際に役に立ち、英文を読みやすくなると多くの生徒が肯定的な回答をした。一方で、意味のまとまり(フレーズ)に区切るの意味やねらいを十分理解できていない生徒もいた。

仮説2

フレーズごとに意味を理解した後で、音読を十分行えば、単語や熟語が定着するだろう。

実践2

新出単語や熟語は、授業の最初に、意味確認、音読を行った。本文の音読は、内容理解、構造理解の後に、日英対訳フレーズシートを使って、全体・ペア等で音読させた。英語を繰り返し音読することにつながった。週1回実施の英単語テスト対策として、音読筆写プリントを配布し、テスト前に音読活動を行い、単語・熟語の定着を図った。

検証2

音読活動は、概ねよく取り組んでいた。日英対訳フレーズシートを使っている全体音読、ペアでの音読とも、意欲的に取り組んでいた。語彙サイズテスト(2000語)の平均スコアは、1513(1学期末)→1601(2学期末)に向上した。英単語テストの平均点は、向上は見られなかったが、不合格者が減り、点数が安定するようになった。

仮説3

教科書以外の易しい英文にも多く触れさせれば、読むことへの抵抗感が減り、スピードも速くなるだろう。

実践3

英語速読テスト(Reading Gym標準)に、授業の冒頭約10分間取り組ませ、初見で英文を読み、概要を把握する活動を行った。易しめの英文を時間内に読ませることで、英文を読むことへの抵抗感を取り除くこと、読解速度の向上を目指した。

検証3

英語速読テストは、これまで合計8回実施した。Reading Speed(wpm)の平均は、第1回～第4回が40.1、第5回～第8回が61.2であり、向上が見られる。速読の得点記録シートやアンケートの結果からも、英文を徐々に読めるようになり、速読力が上がってきていると生徒は感じているようである。英文を読むことへの抵抗が少しではあるが減ったように思われる。

研究の成果

意味のまとまり毎に、英語の語順で意味理解することに生徒は慣れることができたようである。読解速度、語彙サイズともに、少しではあるが向上し、目的を明確にして意識的に取り組めば、できるようになるということを生徒が実感してくれたことも成果である。結果的に、生徒の読解や語彙に対する抵抗感を取り除き、読むことに対する意欲を高めることができたように思う。

今後の授業改善の課題

今回のアクションリサーチでは、生徒の意欲、学力ともにわずかに向上が見られたが、大きな変化は見られなかった。もう少し段階的な指導計画を考える必要があると感じた。また、依然として英語の学習に消極的な生徒もあり、そうした生徒に対して、何をどうすればよいかを具体的に示す必要があると思った。アクションリサーチは、それ自体が目的ではなく、授業改善の手段である。今後も問題意識を持って、授業改善に努めていきたい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

088-822-5270

電子メール